

第4章 地域での市民・事業者の取り組み

1. 環境市民会議の取り組み

地域の環境をよくするためには、市民・事業者の皆さんの取り組みが重要となります。

環境市民会議の皆さんが各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の活動や取り組みを報告します。

皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、「知る、考える、行動する」きっかけとなれば幸いです。

環境市民会議とは？

市内を6つの地区に分け、その地区の環境が良くなるよう自ら活動する団体です。

市内在住・在勤・在学の方であればどなたでも参加できます。

環境保全の取り組みは、一人ひとりの行動が最も重要ですが、その地区の取り組みの推進力となるのが環境市民会議となります。

環境基本計画では、地区ごとにめざす環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理したうえで、多くの課題から絞り込んだ重点課題と、その解消に向けた重点目標、重点取り組みを「地域行動編」として示しています。

この「地域行動編」は、環境市民会議の皆さんによって策定されたものです。

地域行動編の目標を達成するため、その地区内の町会・自治会や事業者、或いは各種団体との連携を図りながら活動しています。

6地区の位置図



中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

気候変動による水位の低下・ごみの不法投棄などが一年を通した浅川巡回パトロールにより、報告されております。しかし、その様な浅川でも、きれいな水を好むギバチやジュズカケハゼなどが年々増え、種類も数多く確認されるようになり、また川で遊ぶ親子や水辺で憩い・安らぐ市民の光景も多く見られます。八王子駅南側で行った「まちなかウオッチング」では自然の光景を残した山田川上流や、駅近くでも多くの樹木を抱える医療刑務所・湧水を見て廻ることが出来ました。この今ある環境の大切さを市民の方々に、より深く知っていただくため、各種イベントに参加して「中央地区の環境」「環境を守るための省エネ活動」「八王子のごみ分別ルール」などの啓発活動を継続して行っております。

■ 環境フェスティバルへの参加

2012八王子環境フェスティバルでは、各部会が協力してパネル展示・ごみ分別クイズ・葉っぱ絵作成コーナーなど出展し、多くの市民に中央地区環境市民会議の取り組みを紹介することができました。また、ゴーヤ苗150鉢、ホトトギス苗木120本を配布し、住宅の緑化をサポートしました。

■ 河川環境

浅川巡回パトロールを積極的に実施し、会員に内容を報告すると共に、必要により関係行政へ報告と要請を行いました。

重点課題である浅川の清掃活動は、河川敷の水辺を重点に2回実施し、全国一斉水質調査など各種イベント実施の際にも堤防や橋の下を中心に清掃を行いました。

また、一般のグループで清掃活動を行っている光景も見られますが、不法投棄や河川敷での飲食の残骸は後を絶たず、より良い水辺環境の確保にはさらなる関心を高めていく必要を感じています。河川環境は一地区だけで解決するものではありませんが、これからも誰もが親しめる浅川であるよう地道に努力していきます。

6月3日に行われた全国一斉水質調査では、浅川大橋と鶴巻橋真下の地点で水質調査を行いました。水質は2地点ともCOD値は2でした。



浅川の清掃活動



浅川ふしぎ探検

9月8日に第8回自然体験講座「浅川ふしぎ探検」を企画し、参加者数は子ども26名、大人22名の合計48名で大変好評でした。

「こんなにきれいな川があったことに本当に感激」、「これだけ川がきれいになっているのだと感じると同時に、日常生活においても気をつけなければならない」となどの感想が聞かれ、きれいになった浅川の実態認識と水辺環境への関心におおいに寄与したイベントとなりました。これからも継続して実施します。

八王子浅川子ども水辺協議会への協力については7月22日の「2012ガサガサ探検隊」に8名がスタッフとして参加しました。中央地区の小学校環境教育（3校）の支援活動には、スタッフとして環境市民会議会員が延べ67名参加しました。

自然体験講座「浅川ふしぎ探検」や小学校の環境教育支援などの活動を通して、浅川の水質改善により浅川に生息する水生生物の種類が年々増えていることが確認されました。反面外来種（ブルーギル）の生息が増えていることが懸念されます。

■ 大気汚染測定

地区内10カ所で継続して測定しています。国道16号バイパスで高い濃度を測定しましたが、全体的には下降傾向にあると思われます。

■ まちのみどり・まちの美観

大横から暁町まで、緑町から子安までの2回のウォッチングを行い、グリーンマップを更新しました。

このマップは、環境フェスティバルや市民センターまつりなどにおいてパネル展示しながら、1,300枚程度を配布し、まち歩きしながらまちのみどりに関心をもっていただくよう呼びかけました。

また、市役所前通りアドプトに参加し、まちの美観の保全活動を支援しました。



ウォッチング・子安町医療刑務所前

■ ごみの減量・資源循環



子安市民センターまつりの環境コーナー

4月のみずき通りフェスティバル、7月の中野七夕まつり、10月の子安・台町・大和田の各市民センターまつり、1月の西八ハイツ新春餅つき会に「環境コーナー」を設け、クイズをとおり正しいごみの分別を理解していただくとともに、ごみが出にくい生活を紹介しました。

「エコひろば」では定期的に市民を集めプラスチックの分別講習を行い説明しました。

また「エコひろば」の実行部隊である「もったいない委員会」や「みんな集まれ委員会」に参画しイベント等の企画やスタッフとして活動しました。

■ 地球温暖化防止

八王子市温暖化防止センターの企画として、上川町で夏の省エネ教室を実施し、省エネを広める省エネ指導員の為の講習会を実施しました。

また、省エネルギーセンター主催の「省エネエキスパート検定」の講習会を実施しました。

11月より八王子市再生可能エネルギー導入検討会に参画しました。



北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

北部地区には加住北、南丘陵に挟まれた谷地川が流れています。下水道整備に伴い水質が改善され、上流部のきれいな水に棲むカワセミやサギ類、カモなども下流域で見られるようになりました。また、みどりの拠点である滝山公園や小宮公園、栗の須緑地を関係諸団体と協力して緑地の整備・保全を行っています。滝山城跡においては、城郭の歴史を探り、当時の城の様子をうかがえるよう説明板の整備に協力するとともに、環境保全を行う目的で下草刈りを行っています。自然体験講座を継続して行うことで、多くの市民が集えるように活動を続けています。このたび北部地区環境マップを改訂し、新たに自然や歴史を体験できるコースを4つ設け、「歴史・ロマンの体験フィールド」としてアピールしています。

■ 水

市内の最も北側を流れる谷地川は、加住・石川地区の中央を横断する全長12.9kmの川で、日野市で多摩川に合流します。谷地川7地点の水質（COD値、pH、電気伝導度）と水棲生物の調査を2ヶ月に1回行い、これ迄の調査結果と比較し水質の改善度合いや水棲生物の変化を確認しています。

■ みどり・生き物・景観

「滝山城跡群・自然と歴史を守る会」と協働し、滝山城址の自然と歴史を守る観点から景観を保護維持するための活動を毎月実施しているほか、その変化推移についても調査継続しています。

また、滝山城跡は八王子のルーツであるという位置付けで、歴史的価値およびその地域の自然、緑、生物多様性を知っていただくために自然体験講座、散策ツアーを開催しています。

さらに、来園者に滝山城跡を理解していただくための「遺構説明板（15箇所）」の設置に協力することで、歴史や城の状況がより理解でき身近なものになったと考えています。



写真A（遺構説明板）



写真B（散策ツアー）

懸案だった「北部地区環境マップー北部地区の歩き方」を改訂しました。北部地区ってどんなところ・めざす環境の姿・地区での主な取り組み等を記述してあります。さらに、北部地区に東（学習見学コース）・西（自然満喫コース）・南（芸術散歩コース）・北（歴史体感コース）の4つの体験コースを設置し、各々特色のある野趣豊かな素晴らしい北部地区を知っていただきたいと思います。

その北部地区環境マップをベースにして、2013年の春、自然体験講座として「滝山自然公園と高月田園散歩」ーカタクリと圓通寺のしだれ桜ーを計画しました。

事前の入念な準備をして当日を迎えたのですが、残念にも雨天で中止となってしまいました。

地域の人達が北部の素晴らしさを体験でき、私たちの活動への理解を深めていただける場と位置付け、今後も継続していくつもりです。



「北部環境マップ」と「滝山自然公園と高月田園散歩」のチラシ

■ 大気

簡易カプセルによる NO_2 の測定を、国道16号バイパスや滝山街道などの幹線道路を中心に30地点以上で、夏・冬2回実施しました。交通量の多い幹線道路では環境基準を上回っているところも見られるなど、まだまだ改善の必要性があると思われます。大気測定結果は八王子大気汚染測定ネットに報告し、各環境市民会議や独自に測定されている市民の方々のデータと比較しています。

■ 環境教育

毎年秋期に環境教育の支援として小宮小学校の4年生を対象に、多摩川の水質や魚、水棲生物、植物や石、鳥など多岐に亘り川の様子を調べる多摩川自然体験学習を支援しました。生徒は、1回目；総合基礎2回目；部門別研究3回目；全体発表会と系統的に多摩川の環境を知ることができました。



写真C（魚・水生生物の採取）



写真D（石の種類を分別）

■ その他

6月、八王子環境フェスティバルに参加し、北部地区の環境の状況をパネル展示しました。また、私たちの地域を流れる谷地川の状態を知っていただきたく、そこに住む魚・水棲生物を水槽に展示しました。ウグイ、アブラハヤ、ギバチ、シマドジョウ等、多種で数も多いことが確認できました。

水棲生物もカワゲラ、トビゲラの類も多く生物の多様性のベースは形作られていることも確認できました。しかし、アメリカザリガニなどの外来種も確認され、今後の河川の環境保全に対する問題点もみられました。

また、前述した環境マップ（散策マップ）を環境フェスティバルで配布し、来場者にアピールしました。当マップは常時、市民センターや「エコひろば」に配布用として置いてあります。



環境フェスティバルにて啓発

西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

西部地区は、みどり豊かな自然に恵まれて多様な生態系が形成されています。

このような環境の中で地域を流れる案内川、醍醐川、小津川、山入川、川口川、城山川、大沢川は浅川の源流として位置付けられていますが、近年保水力浸透性が低下したか河川流量の減少や瀬切れが目立つようになり、変化が見受けられます。市街地の道路や河川でもごみ類のポイ捨てが多々見られます。撲滅に向け地域一丸となって地道な活動が続けられていますが、更なる連携協働と郷土愛向上が必要となっています。

他方、地区に大規模開発が急激に進もうとしています。一つは、元八地区の大沢川源流近くに「(仮称) 八王子スポーツパーク」の開発構想が示され、多様な生物が生息する大沢川源流部に、又かろうじて残された美しい森林谷戸に建設をするというものです。もう一つは、川口地区内の圏央道の両側に、物流拠点施設を建設するという大規模開発計画です。両地区とも、緑豊かな森林谷戸ですが、市民の共有の財産である広大な緑地が消えることは先行き懸念されます。給水力のある開発であってもらいたいものです。

■ 学校・地域と連携した活動（川口地区）

毎年、総合学習で行われる農業体験（田植え、稲刈、脱穀、収穫米で餅つき）は自然の中で体験する非日常的な時間です。

素足で触れる土の感触、生き物との触れあい、稲の生長する様子、薪割りや餅つき体験など、全身で感じる自然体験では、その時々子どもたちの普段は見られない生き生きとした行動が現れます。

川口地区町会自治会連合会の企画事業『川口地区の今』写真集の発刊に参画しました。美山町、上川町、川口町、犬目町、檜原町の17町会・自治会と地域で活動する市民団体から編集委員32名が選出され、分科会に分かれ撮影から編集に取り組みました。

写真集は地域の移り変わる様子、貴重な自然が残っている風景、先人から継承された歴史や文化、17町会・自治会の活動や公共施設など写真集には600枚の写真が収められています。

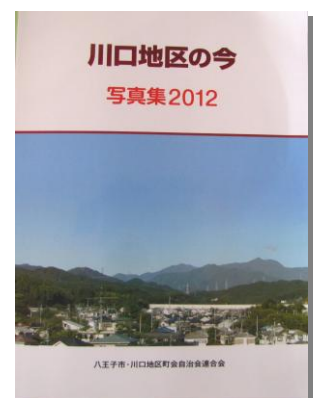
川口地区の町会・自治会、各団体が一丸になって取り組んだ事業は地域の連帯意識を高め、地域を再認識する大きな成果を収めました。

■ 川口川の水質調査と地域井戸の実態調査（川口地区）

川口川源流域までの15km区間を年2回、15ヶ所で定点観察を実施しています。水質や排水の実態、河床の水涸れ（瀬切れ）など地域の水環境の変化を調査記録しています。渇水期には、上流域と中流域では慢性的に河床の水涸れが発生、豪雨時は中・下流域で河川水位が急増する傾向が見られます。こうした現象は宅地化の進行や農地の減少、丘陵地の大規模開発などによる雨水浸透性の低下、保水性の悪化が大きく影響しています。

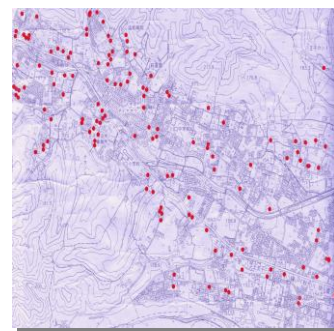


稲刈り



写真集「川口地区の今」

4年前から川口地区町会自治会連合会（17町会・自治会8,189世帯）と連携して地域井戸の実態調査を行いました。その結果、現存する井戸は417基、その井戸の中から地域別に毎年井戸水の簡易水質検査を実施しています。本年まで20箇所のデータを収集、その調査結果から季節や流域毎に水質に有意差があり、地下水汚染との因果関係も見えてきました。防災面で井戸の役割は重要であるという視点で公共施設に井戸を新設する市町村も増えています。



現存する井戸の分布

■ 6年間に亘るマイバッグ普及に関する実態調査（川口地区）

マイバック持参率調査は地域店舗と連携して毎年12月に同一店舗で開店から夕方まで行いました。平成19～21年度の3年間は地域イベントでアンケートによる意識調査を行い、3年間のマイバック利用率は3年間平均で34.4%でした。

4年目以降は店舗で実態調査と普及活動を続け、その調査ではマイバック利用者は、22年度は48.5%、23年度は51.2%、24年度は47.8%でした。

6年間に亘る地域のマイバック利用者調査は市民意識の変化が読み取れます。マイバック利用者には「ごみ」を出す際、レジ袋を利用するという意見も多く聞かれ、レジ袋削減には課題もあります。

■ 大沢川・城山川のクリーン活動（元八地区）

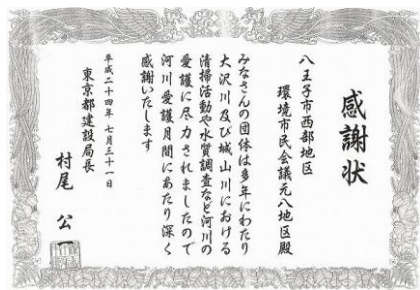
19年度から大沢川中流域の柳橋から恵橋間を年4回（3月、6月、9月、12月）漂流ごみの回収を行ってきた。23年度からは、大沢川と合流している城山川（不動橋～めぐみ橋）の漂流ごみの回収を流域町会との協働作業で交互に実施している。これらの活動が評価され平成24年7月に東京都建設局から表彰されました。



なお、6月には全国一斉水環境調査に20年度より連続して参加し、大沢川・城山川の水質検査としてCODパックテスト（D）継続していく予定です。

■ ホタル保存会の活動（元八地区）

城山小学校付近でホタルが発見されたことをきっかけに、環境市民会議の主導で18年に「城山小地区ホタル保存会」を発足させました。以来、主な活動としては地域との協働で毎年5月に川掃除、6月にはホタル講座と鑑賞会を開催し、地域の子もたちに自然を大切にする意識を啓蒙しています。近隣の親子220人が参加し、ホタルが生きられる環境について知識を深め、ホタルの飛翔を堪能しました。今後も、地域の貴重な財産であるホタルの棲める環境を守っていきたく考えています。



ホタル講座

■ マイバッグ普及に関する実態調査（元八地区）

レジ袋の削減の取り組みとして、市ごみ減量対策課と共同して、今回は、住宅地を中心に「マイバッグ店頭啓発活動」に積極的に参加しました。8ヶ所実施して、結果は持参率が30%～50%でした。結果はあまりよくありませんでした。

アンケート集計結果では、60%以上の方が「マイバッグを使用する」という意識を持っているが、実際にはレジ袋を受け取るケースも多く、約10%の方がマイバッグに対する意識が低いようです。

西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

高尾山を中心とする豊かなみどりに恵まれた地区ですが、町田街道などの幹線道路の大気汚染、一部河川の汚れ、山間部における不法投棄などの問題を抱えています。特に最近、高尾山の入山者が大幅に増え様々な環境問題が発生し、貴重な自然が失われる恐れがあります。また、高尾山ＩＣの開通に伴う中央道と圏央道のジャンクション付近や周辺への環境への影響が懸念され、騒音、大気汚染及び動植物などの自然環境を見守っていく必要があります。

地域全体の取り組みとしては、地域を一つの博物館と考える『エコミュージアム構想』に基づき「地域の宝の掘り起こし」や里山保全活動では池の沢館町緑地をベースに蛍観察会など各種体験講座の開催、地域の小学校を対象に環境教育支援に取り組んでいます。

また、開設が遅れている旧高尾自然科学博物館跡地の「高尾の里拠点施設」は「TAKAO 599 MUSEUM」の名称を得たことから、博物館機能を重視した運営をするよう、市へ積極的に働きかけています。

地域の啓発活動にも力を入れており、市民センターまつりでの展示やいちょう祭りでのごみ分別指導など、積極的に進めているところです。

■ 高尾山の保全

毎年定期の高尾山自然調査で指標樹木の樹勢を観察・記録して年ごとの変化を監視しています。6号路から1号路、蛇滝口にかけての指標樹木22本（6月4日）、1号路から4号路、蛇滝口にかけて8年連続、指標樹木15本（13年3月16日）の調査を行いました。特定場所の1本の枯れ化が顕著です。小仏城山周辺の環境調査を行い（9月28日）、市に対し同地の環境改善を要望しました（10月15日）。高尾山への入山者、人工物の急増により景観や自然への悪影響が心配されます。



小仏城山周辺の環境調査

環境フェスティバル（6月4日）、市民センター祭りにて高尾山の環境保護を訴えました。

■ 地域の宝起し

地域の宝を掘り起こし、再認識しようと自然体験講座を開催（10月21日）し、一般市民11名が参加しました。

高尾から狭間、館、散田、山田までの自然、歴史、文化遺産を観察しました。前もって下見を行い、コース案内図と地域の宝の写真、そして、説明文を整理して、当日資料として参加者に配布しました。



地域宝起しウォーキング

■ エコミュージアムマップ

高尾編、市街編の改訂版を1,500部印刷し、地域の宝の再認識の資料として市民に頒布しました。

■ 高尾の里拠点施設

27年度に開設予定の「高尾の里拠点施設」に関して「整備あり方検討会」に5回参加し、高尾の自然科学博物館を考える会と合同で「市と協議」を3回行いました。

施設の名称が「TAKAO 599 MUSEUM」となったのは一つの成果です。

■ 里山保全

池の沢に蛍を増やす会と協働で6／30、9／22、10／12・13に、来業の従業員・家族と里山保全体験講座を6／29と7／1に、市民と蛍観察会を13．3／17に、一般市民と野鳥観察会を池の沢にて開催しました。述べ会員60名、一般197名が参加しました。

地元の町会と協働で、駒木野の野草保護に関して草刈り、柵の設置、補修を7／9と11、又、13．3に行ないました。

チラシを作り、同地の案内と自然保護を訴えました。

里山調査は計画のみで終わってしまいました。

■ 流域の水質調査

地区内を流れる案内川・小仏川・南浅川・湯殿川・初沢川・殿入川・大船川の水質は年々向上しています。毎年6月と12月に20箇所の定期的水質検査を行なっていますが、CODの数値は0～2以内(きれい)に安定し、下水管接続が完了したことにより家庭雑排水がなくなった成果と考えます。湯殿川和合橋下流にもホトケドジョウの生息が確認され喜ばしいことですが、川辺に生い茂る葦や木々は景観を損ねています。

南浅川では毎年春先の瀬枯れが目立ち、全般的に水量の減少は気になることです。また、極僅かですが、右岸の土管から放出される家庭雑排水と思われる汚水が見られるのは残念なことです。

■ 大気汚染測定

西南部地区では東京都大気汚染調査と合わせて6月と12月に22箇所(主として交通量の多い道路脇)の二酸化窒素の測定を続けていますが、10年間の計測結果では世界保健機構の基準値による0.021ppm以下(少し汚れている)になっています。交差点等における大型自動車の排気ガスには咳き込むことが多く、道路行政による渋滞対策の促進が望まれます。併せて一般ドライバーの環境にやさしい運転マナーの向上も大切なことと思います。

■ ごみの減量

ごみの削減に関する知識や情報のパネルを更新し地区内の三箇所の市民センター祭りや環境フェスティバルなどで展示して啓発活動を行いました。『ごみゼロを目指す循環型都市八王子』の啓発手段の一つとして、本来は可燃物として焼却される公園や街路樹から道路に飛散した落ち葉を、老人会や近隣住民と共に清掃・収集し、更に各家庭の剪定葉や落葉を堆肥槽に入れ、加水して糠を混ぜ、切り替えしを数回行い、1年がかりで腐葉土化し、これを近隣住民に配布することで、家庭でもできる“循環”啓発活動を実施しました。市と協力しレジ袋の削減の取り組みとして“マイバック店頭啓発活動”を市内のスーパーマーケットにて3回、4店舗の活動に積極的に参加しました。

当会が長年主管している“いちょう祭り環境委員会”は、祭りで啓発してきたごみ・資源の分別が来場市民に定着し、当初の会議の目的を達したと思われることから、今後は、この定着・維持を図るべき拡大した新管理体制の構築活動に着手しました。更に、ポイ捨てごみの清掃や日常の生活で楽しくごみの削減ができる「エコレシピ」の実習も毎年継続して実施しています。不法投棄状況把握活動については、池の沢の頂上付近や都立翔陽高校などの限られた観測点を不定期に見ています。

■ 環境教育支援・地域環境診断

市内の9つの小学校の環境教育支援に取り組み、地区では4校を当会の会員(延べ人員101名)が中心となり支援しました。



小仏川沿い「早春の野草」チラシ

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状 「ふるさとの八王子を美しい街に！」

東南部のみどりは、周辺域での小規模開発によりみどりが減少し、手入れの行き届かない放置された里山が見受けられます。

浅川・湯殿川クリーンデーや湯殿川清掃活動などを流域町会と協働で行いました。東南部の浅川水系の河川水質は、山田川下中田橋下流域を除いてCOD値1～2を示しています。

街の美化に多少でも貢献しようと定期的に北野駅周辺の道路の清掃活動や年2回東南部6駅周辺のごみのきれいさ評価を行っています。美しい八王子を作る会主催の一斉清掃デーにも町会と合同参加しました。湯殿川の定期清掃にも取り組んでいます。

大気汚染として東京都一斉NOx測定に2回参加しましたが、16号バイパスでは数値の悪い場所が多く今後とも注目していく必要があります。

東南部の街路樹マップを6月に完成させました。

地域とのつながりを大切に、北野駅前喫煙マナーキャンペーン、省エネ講座や小学校支援も行っています。町会・自治会を始めとする環境活動をしている地域団体とのネットワーク作りや広報活動を行いました。

■ 環境保全 東南部地区の協働ネットワーク

環境保全活動 東南部地区の協働ネットワーク

北野地区喫煙マナーアップキャンペーン

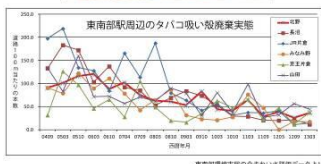
日時 H24年12月11日(火) 16時～17時
場所 北野駅前
参加者 八王子市、北野町会、打越町会、東南部環境市民の会 計30名
チラシ800枚/啓発ディッシュ1200個配布加



水が捨てられず、歩道が汚れる様子を写し、きれいな街を築こうと呼びかけています。

東南部のきれいさ評価

年2回、9月と3月に東南部の6駅周辺についてごみ種類ごとに数量をカウントし、見える化をしています。喫煙マナーアップにも役立っています。



「節電・省エネ」講座

日時 H24年6月19日(火) 18時～20時
場所 綱ヶ丘一丁目自治会館(A・Bホール)
講師 東南部環境市民の会 光澤 康文氏
参加者 綱ヶ丘一丁目自治会 24名、スタッフ 3名
参加者アンケートより
わかっていながらも実践が難しい発見や再認識ができてとても有効であった。PCを利用しわかりやすい講演でした。
夏に向けた今の時期が適切であるが、年に何回か開催するのいいと思います。



外来植物の駆除

日時 H24年5月21日(月)
場所 片倉台自治会道路アドプト
参加 片倉台自治会、東南部環境市民の会
道路沿いのナガミヒナゲシの駆除

外来植物は繁殖力がひときわ強く放置すると日本固有の植物が駆逐され地域の生態系に多大な影響を与える恐れがある。

ナガミヒナゲシ

- ・地中海沿岸原産のケシ科の帰化植物です。
- ・4～5月にかけてオレンジ色の可憐な花を付け、その後も長めのケシの葉を付けます。この葉には1000倍～2000倍の毒が入っており、誤って食べた場合や皮膚に接触して患部のタイや人の皮膚について運ばれ広がります。
- ・このため幹線道路の道路脇のコンクリートの隙間や道路脇の排水溝の下などに多く見られます。
- ・駆除力が強く、土壌や葉を踏むだけで毒が土壌に染み渡ります。
- ・種子が飛散する前の時期(4～5月)に駆除するのが効果的です。
- ・東南部市民会議ではH24/5/21に片倉台地区で自治会の皆さんと本隊



親子で川の生きものと水質調査

日時 H24年6月3日(日) 13:00～15:30
場所 エコひろば、浅川(八高線駅橋下)
参加者 子ども8、大人8、指導者4名、その他3名

金環日食観望会



H24年5月21日(月)
片倉台小学校、自治会、東南部関係者市民の会

浅川自然体験講座2012 「イカダで川下り、生き物観察」

日時 H24年7月29日(日) 9:30～14:00
場所 エコひろば、浅川(八高線駅橋下)
参加者 子ども18、大人19、スタッフ16名、大学生4名、合計57名
イカダの竹材の切り出しは宇津貫みどりの会に協力いただきました
参加者アンケートより
川が思ったよりきれいでした。浅い流れが急な所もけっけうあり気をつけなければならぬと感じました。川(大和田町)で近くに住んでいますが、こんな身近に川遊び、イカダ作り体験が出来てうれしいです。川に色々な生き物がいる事がわかった。ライフジャケットを着て遊ぶ事がないので、楽しそうでした。



年2回行う自然体験講座には、東南部の町会・自治会にチラシを回覧しています。

浅川・湯殿川クリーンデー

日時 H24年4月15日(日) 10時～12時
全体150名参加、東南部8名、流域町会、病院関係、高校生、中学生、参加 東京都、八王子市水循環部、長沼町会、NEC団地、打越町会
大量のゴミ、不燃ゴミ、危険物など清掃、町会の参加が多かった。
全体の収集ゴミ:可燃物390kg、不燃物160kg、計550kg



東南部環境市民の会

■ 自然体験講座



■ 親子で川の生きものと水質調査



秋の自然体験講座は浜街道散策会を行い、参加者21名+スタッフ9名、計30名、浜街道の名前に惹かれて参加した方もおられ、アンケートには、「行きたいと思っていた所ばかりで大変嬉しかったです」とか、「歴史がよくわかった」、「念願だった絹の道に来られてうれしかった」、「八王子に最近越して来たため今後も参加したく講座を増やして下さい」といった内容で、とても好評でした。

■ 河川・水質

6月(全国一斉)と12月に14ヶ所の水質調査を行いました。浅川、湯殿川、兵衛川、山田川の水質は少しずつきれいになってきています。6月の浅川での「親子で川の生き物と全国一斉水質調査」や8月の「竹イカダで川下り、生きもの観察」を行い、きれいな川・親しみやすい川・遊びたい川を実感してもらいました。4月の浅川・湯殿川クリーンデー、7月の湯殿川クリーンデー、12月の湯殿川クリーンデーを行い、川を美しくする活動に大きな成果をあげました。

■ ごみ分別・収集・リサイクル

22年度から市の分別基準の変更がありましたが、プラスチックの分別が不十分です。エコひろばで行うプラスチック分別の活動に講師として参加しました。プラスチックのリサイクルの知識を更に得て今後の活動に生かすため、プラスチックのリサイクル工場の見学をしました。

■ ごみのポイ捨て・都市の美観

毎月1回、北野駅周辺のごみ拾いを行っています。更に、半年に1回東南部地区6駅周辺のごみを拾い数えています。4年から行っていますが、市の歩行喫煙禁止、町会・自治会・事業者・学校・個人などのきれいにしようという行動によって非常にきれいになっています。5月にみんなの街の清掃デーに参加し打越町会と合流して清掃しました。12月には環境政策課との協働により、打越町会と北野町会と一緒に北野駅周辺で喫煙マナーアップキャンペーンを行いました。

■ 大気・騒音・地球温暖化防止

年2回のNO_x簡易測定を実施したほか、環境フェスティバルでは地球温暖化防止に役立つケナフの苗や種を配布し、各家庭で育ててもらい環境への市民参加の場づくりを行いました。

■ 環境市民会議のあり方について

24年9月から翌年4月にかけて環境市民会議のあり方を全員で討議し、報告をまとめました。

会の名称は、東南部環境市民の会とし、環境学習リーダーの名前は変更しない。活動は環境政策課のリーダーシップのもとに行うものとし、活動内容は条例との整合性、町会・自治会をはじめとする環境活動をしている市内各団体とのネットワークづくりや女性の活動の活性化、次世代の環境の担い手の育成など、今後さらに詰めていくこととしました。

「エコひろば」は、環境市民会議を支援する組織と位置付け、6地区代表者会議は正式の会議体とし、必要に応じて環境政策課の職員の出席養成を行うほか、代表の呼びかけで集まり、打合せを行うこととしました。

東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部(由木)地区の北側は多摩丘陵が東西に走り、又、南側は多摩ニュータウンとして地域の特色としてのみどりの景観を、それぞれ形成しています。

この地区の生態系は多摩丘陵の里山を維持することで守られています。

多摩ニュータウンで最初に整備された、別所地区の面積19.8ヘクタールの『長池公園』に続き、堀之内地区の面積5.2ヘクタールの地域が『堀之内寺沢里山公園』として整備され、現在、最後の開発が行われている隣接の「19住区東山地区」もみどりの保全を重視した計画で進められています。

さらに、堀之内の里山について、都の自然保護条例による里山保全地域に指定され、みどりの保全が進んでいます。

大気と河川の水質については、本市全地区に係わることであることから、関係団体と連携してNO₂の測定及び大栗川・寺沢川・大田川の水質調査を継続しています。

■ 自然環境

24年度も、春・秋に恒例の『自然観察会』を「多摩丘陵の自然を守る会」の協力を得て実施しましたが、毎回楽しみにして参加する常連も増え、春・秋のコースと場所を逆にして植物を楽しみました。

4月の自然体験講座は「由木中央小学校前バス停」に集合。

日枝神社から宮嶽谷戸を経て寺沢里山公園で解散する自然観察を行い、10月には「野猿峠バス停」に集合し、中山、鑓水を経て、絹の道資料館までの自然観察を行いました。

自然体験講座をはじめ、普段の活動を6月の「環境フェスティバル」、南大沢や由木中央の住民協議会の開催する「市民センターまつり」、或いは「南口総合事務所・多目的スペース」、更には「エコひろば」の主催する行事等の「パネル展」などに展示して、市民に理解と協力をお願いしました。

■ 大気汚染

毎年6月と12月の2回、都内全域におけるNO₂の調査は、24年度も他の環境市民会議と協力し、データの収集を行いました。24年度の調査は、5月31日から6月1日にかけてと、12月6日から7日にかけての2回に参加しました。

結果の数値については、データ集に示しています。また、結果の分析には他のデータも必要と思われますが、この中の「堀之内第三トンネル内」のデータが、0.070ppmを示し、多摩地区の中の最悪データを示しており、今後の対応を検討しているところです。

これからも、他の団体と連携を図りながらデータ収集を行っていきます。



秋の自然体験講座



南大沢市民センターまつり

■ 河川・水質

河川の水質調査は、6月3日に全国水環境マップ実行委員会や浅川流域市民フォーラムなどと協力して、大栗川では4か所、大田川では2か所と寺沢川では5か所の3河川の計11か所で実施しました。

■ 美化・ごみ・エネルギー

南大沢駅周辺の新たな発展、そして乗降客の増加に伴い、駅周辺の美化活動や禁煙活動の関心が高まり、放置自転車も皆無の状況です。これらの一環として、南大沢中学校と青少年対策南大沢委員会が中心に、地元商店街の「元気な街“南大沢”協力の会」も加わり、年に3回の「クリーン・デー」が毎年継続して実施されています。

駅前に設置されている「22基のフラワーポット」の植替えや水やりなどの維持管理を「南大沢みどりのサポーターの会」が中心になり、毎月2回の活動日に行っています。この活動が「(社)日本道路協会」に認められ、9月に『道路功労者』としての表彰を受けました。

また、ごみの不法投棄は減少傾向にありますが、ゲリラ的に発生するので、今後とも継続的な市民・事業者への啓発活動や市への提案が必要です。

なお、7月、南大沢3丁目に生ごみ対策の一助となる「八王子バイオマス・エコセンター」が完成しましたが、地元住民からの臭気問題の苦情が出て、改善を図っているところです。

今後は、生ごみの堆肥化を推進するための「ダンボールコンポスト」の活用をはじめ、最新のごみ問題・プラスチック分別の関連情報の展示・説明を行うと共に、「不法投棄場所」の監視活動を続けていきます。

■ 環境にかかわる実践活動と今後の問題点

『市立学校の環境教育支援活動』として「由木東小学校」、「柏木小学校」「松が谷小学校」に対して、「エコひろば」との連携のもと、他地区の環境市民会議の会員の協力を得て、大栗川、浅川などで実施しました。

『里山保全活動』では、長池公園における『長池里山クラブ』と指定管理者「フュージョン長池」と『東日本大震災』による“放射能汚染問題”について、今後の活動方法の検討を行いました。

雑木林の更新と炭焼きによって生ずる“薪と炭”について、市の所管課とも協議を行い、“木炭”の「放射能汚染状況」について『㈱環境管理センター』で測定した結果【Cs-134、最大66.9Bq/kg、Cs-137、最大135Bq/kg、】といった範囲内の結果を得ました。

また、「堀之内寺沢公園」では『まちづくり里山楽友会』の活動が定着し、引き続き自然環境の保全と里山の継承活動が活発に行われており、隣接に開発された「東山地区」でも、住民による観察会が定期的に行われ、環境保全への関心が高まっています。

今後の問題としては、『里山保全活動』をはじめ、自然環境の活動において「マダニ」による感染症についての知識と予防措置が大切であり、関心を高める必要が出てきます。



大栗川の眺望（水環境の調査）



環境教育支援

地域行動編評価一覧

24年度における環境市民会議各地区の活動実績に基づき、その地区の活動実績をその地区で総括的に評価したものと、その評価に対して環境推進会議で相互に評価したものを掲載しています。

＜中央地区環境市民会議での総括評価＞

浅川では、きれいな水を好むギバチやジュズカケハゼなど数多く確認されるようになり、川で遊ぶ親子や水辺で憩い・安らぐ市民の光景も多く見られようになりました。六本杉公園の湧水池では、湧水量の維持・強化の為に取り組みが現在進行形でなされています。省エネ活動においては、多くの会員が省エネ普及活動に参加し、啓発活動を行いました。

環境コーナーにおいては、今年は満点をとりたいなどリピーターの市民から声をかけていただくこともあり、市民の意識の向上を実感しました。「継続は力なり」です。このような意識の高い市民に活動に参加していただけるよう、中央地区環境市民会議もより前進して行きます。

＜環境推進会議での相互評価＞

浅川の水質が改善され、中央地区が行っている巡回パトロールや河川クリーン活動、又、ウグイの放流や自然体験講座など、継続した活動は実績を伴ったとても重要な活動と感じました。

また、各種イベントでは、独自の「環境コーナー」を設け、ごみの分別など、環境の情報提供に努めていただいています。

更には、省エネ教室やごみの分別体験講座など、積極的に実施していただいたことで、広く市民に啓発できたことと確信しています。

自ら「継続は力なり」と掲げられているとおり、引き続き活動の推進に努めていただきたいと思います。

＜北部地区環境市民会議での総括評価＞

水と大気分野では継続的に測定を実施しデータを蓄積していることから、今後の環境を検討するうえで有効と考える。

みどりの分野では、滝山城跡の下草刈り、遺跡及び自然調査を、滝山城跡群・自然と歴史を守る会と共同で行ったほか、自然体験講座「道の駅八王子滝山から滝山城跡の散策ツアー」等、市民参加行事へ貢献できた。

少数の会員ながら昨年度に引き続き、環境フェスティバルへの参加や市立小学校への環境学習支援など、啓発活動も活発に行えたことから、今後は、会員の拡充に努めたい。

＜環境推進会議での相互評価＞

滝山城跡では、下草刈りや除伐などの活動を定期的に行っていることから、市民のみならず観光客にも大きく貢献していると思います。

また、大気測定や水質検査で得られたデータの活用については、しっかり検討していただき、地域の環境の保全・改善につなげていただきたいと思います。

会員の拡充については、6地区共通の課題と考えます。

本市でも、ポスターの掲出やチラシの配布など、これまで以上に支援していきたいと考えます。

＜西部地区環境市民会議での総括評価＞

川口・元八地域に分かれ、個々に活動を展開している。恩方地区については環境市民会議の活動は休止状態である（再開の目途は得られていない）。

川口地区／川口川の定期調査（2回/年）は、冬期に発生する瀬切れ調査と並行して流入する生活排水調査を行っている。下流域では予想以上の流入が確認され、所管部門に情報提供した。

また、川口地区町会自治会と連携した井戸調査は12箇所の井戸水を採取して公的機関で簡易水質検査を行った。水質評価は下流域ほど水質悪化が認められた。井戸水調査は防災対応と同期して今後も継続して実施していく。学校と連携した活動は父兄・協力者を加え総合学習の時間で5回/年行った。事業者と連携したマイバック調査は3年間継続して出口調査（1回/年）を実施、マイバック持参率は50%を超えた。市民への周知活動は住民協議会の市民センター祭りでパネル展示等を行い、広報活動を行っているが会員増強には繋がっていない。

元八地区／河川では、身近な水環境の「全国一斉調査」に継続参加するほか、大沢川・城山川の清掃を関係町会との共同作業や、水質調査9ヶ所も定期的に取り組んでいる。災害時の備えとして湧水調査7ヶ所も継続して、実施測定データを蓄積している。昨年実施された環境省の河川水質改善度合いランキングでは、城山川、南浅川、川口川が上位を独占した。下水道整備で河川水質は改善されつつあるが、家庭からの生活排水がまだ河川に流入している。

＜環境推進会議での相互評価＞

3つの地区に分かれて活動されているものの、地元町会・自治会との連携のもと、井戸調査や湧水調査をはじめ、水質調査や河川清掃など、川に関わる活動が活発に行われていることが伺えます。緊急時での対応や水質の改善などに役立てていただければと思います。

また、マイバック調査では、独自の方法及び本市との連携の2段階構えで行っており、その分析結果を市民周知するなど、持参率向上につながっていると考えます。

なお、河川の水質改善のためにも、下水道へ接続促進するよう声掛けなどしていただきたいと思います。

＜西南部地区環境市民会議での総括評価＞

1. 高尾山の自然保護をテーマに、環境変化を見るための指標樹木を写真で記録したほか、来山者の増加で自然を失う恐れやトイレ不足等の問題を訴えた。また、旧高尾自然科学博物館跡地の「高尾の里拠点施設」の設計や運営等に対し、自然の宝庫「高尾山」にふさわしい魅力ある施設とするよう行政に提言した。
2. エコミュージアム構想に基づき、「市街編」と「高尾編」の改訂版マップを作成し、更に「地域の宝の掘り起こし」の取り組みを自然体験講座で紹介し好評を得た。
3. 里山保全活動では、池の沢館町緑地でホテルの観察会、自然体験講座、企業研修を実施し、成果を得ている。
4. 河川の水質検査、大気汚染測定、蛍の復活調査をし、その結果を環境フェスティバルや市民センターまつりで展示し好評を得た。
5. ごみの分野では、レジ袋削減を目的としたマイバック店頭啓発活動に参加し、いちょう祭りでは高校生に対しごみ分別指導を行い、又、公園の落葉や生ごみを堆肥化し市民に配布した。
6. 環境教育支援として、当地区の小学では当会の会員が中心となり支援した。

＜環境推進会議での相互評価＞

高尾山の自然を守るための活動や高尾山を知っていただこうと、既存の「マップ」の改訂など、高尾山を大切に思う気持ちが伝わってきます。これからも、高尾山の良好な環境づくりに取り組んでください。

また、池の沢では、企業や他の保全団体との連携により里山保全が図られていることから、市内全域に波及していくことを期待しています。

なお、いちょう祭りでは、西南部地区でしかできない活動であり、毎年活発に行っていたことから、環境市民会議を広く市民に周知する良い機会にもなるため、恒久的に参加していただければと思います。

＜東南部区環境市民会議での総括評価＞

「夏休み浅川自然体験講座」（イカダで川下りと生き物観察）と「秋の自然体験講座」（宇津貫緑地）を実施したほか、みどりの保全では近隣自治会との連携で、東南部制作のハイキングマップを使い地域の自然と歴史にふれ合ってもらえた。引き続き年3回の河川清掃を行い、親子の川の生き物と水質調査や川遊びなどのイベントを通して、美しい川、親しみやすい川及び遊びたい川づくりに取り組んでいる。また、一層のごみ減量を実現するため、市の組成分析のデータによる資源混入率の市民啓発、スーパーのマイバッグ利用促進の啓発活動及びたばこのポイ捨て防止のための啓発に努めた。都市の美観では、「北野駅前の定期清掃活動」を継続して実施しているほか、東南部の中心地区である北野駅周辺で、町会と連携して喫煙マナーアップキャンペーンを行った。また、地球温暖化防止を啓発するため大気汚染測定から大気の大切さの学習やケナフの苗の配布を行い、節電・省エネの講演会も行った。従来から定期的に行っている河川清掃や学校・事業者による定期清掃の結果が半年ごとに行っている「きれいさ評価」に表れている。また、環境市民会議のあり方について真剣に議論し、次年度計画に反映している。

＜環境推進会議での相互評価＞

継続的な活動の成果がしっかり出ていることが伺えます。

また、地域の環境を身近に知っていただくための「ハイキングマップ」を使っの、体験講座が地元に広まっていくことを願っています。

また、初めて試みた町会との連携での喫煙マナーアップキャンペーンについては、今後の活動の位置付けとして、とても良い取り組みであったと確信しています。

環境市民会議の活動の手本として、継続して取り組んでいただきたいと思います。

＜東部地区環境市民会議での総括評価＞

自然体験講座として、春・秋の自然観察会では昨年の観察地域を交替して、春は「中山・鑓水地区」を、秋は「堀之内地区」を巡っての植物観察ができた。そして、一昨年、昨年と関心が高かったが雨天で中止になっていた「巨樹・巨木めぐり」も、秋に「鑓水地区」で実施することができた。

また、堀之内寺沢里山公園が整備され、長池公園と並んで2つの公園で公園アドプトに参加するとともに、継続して自然環境の保全と里山の継承活動を行っているが、3月11日の『東日本大震災』による《放射能汚染》の問題の影響について、八王子市や東京都、国の指示・指導に従っている。

地区内の住民協議会が実施する南大沢と由木中央の市民センターまつりに参加して、東部地区環境市民会議の活動をパネル展示したほか、南大沢地区の年3回の「クリーンデー」への参加、南大沢駅前の花壇の維持管理など地域の美化に努めた。

さらに、市立小学生を対象に行っている環境教育支援活動では、由木東小学校、松が谷小学校及び上柚木小学校で行ったほか、大気汚染測定や河川水質調査は継続的に行っている。

＜環境推進会議での相互評価＞

ニュータウンを抱える東部地区では、街中にある自然がとても大切となります。

長池公園と堀之内寺沢里山公園は自然を多く取り入れた都市公園であり、この公園のアドプトに参加することは、主要な活動の一つと考えます。

他の団体などと連携し、市民に親しまれる良好な環境づくりに努めてください。

また、自然体験講座においては、四季を上手に使って実施していることから、参加者を2度喜ばせる工夫がとても良かったと思います。

これからも地域特性を活かした活動に努めてください。